



第一は黒川東の河岸段丘から東に位置する地域で、この地域は深い地層で、ある程度の水量は見込めますが、1カ所の取水量が数100m³/日程度と少なく、水道水源としては適さないと思われます。

第二は、板荷地区と大芦川から西側の地域で、この地域は帯水層が非常に少なく、水源としては期待できない状況です。

第三は、黒川東の河岸段丘の西側から大芦川間での区域で、この

地域は本市の中でも最も地下水の取水が見込める地域であり、現在5カ所の浄水場は全てこの区域(※1「思川低地」という)にあります。

※2 河岸段丘とは、岩盤からなる階段状の地形。

※3 帯水層とは、地下水によって飽和されている地層。

地下水は大丈夫？

また、近年は社会環境の変化により、全国的にも、トリクロロエチレン・クリプトスポリジウム等による地下水汚染が騒がれています。そのため、国や県においては水質基準の見直しもされています。

これからの給水(上水道)計画はどうなるの？

市では、昭和29年より、給水を開始しました。

昭和27年の創設時には、給水人口2万人、1日最大配水量4,200m³/日で、国より水道事業の認可を受け工事に着手し、その後、給水人口の増加、また、生活環境の変化により、一人当たりの使用量も増加してきました。そのため、第1次から第4次と拡張事業を重ね、現在、第5次の拡張事業を進めています。

第5次拡張は、給水人口9万人、1日の最大配水量50,500m³/日で計画しています。

第5次拡張の区域はどこですか？

第5次拡張事業に伴い追加になった区域は、

全部の区域(古賀志町・高谷・深岩・佐目町・野沢町・亀和田町・北赤塚町)

一部の区域(玉田町・見野・富岡・武子・下武子町・仁神堂町・板窪・千渡・酒野谷・下日向・上日向・深岩・笹原田・塩山町・奈佐原町・油田町・下南摩町・西沢町・榎木町・磯町・藤江町・南上野町・大和田町)などです。

最大配水量(50,500^名)の話をもっと詳しく聞かせてください。

先に述べたように、一人当たりの使用量は増加してきています。一人当たりの生活用水を27ℓ/日とし、さらに、学校・病院・商店・事務所の業務営業・工業用水、水質管理・工事の後の配水管洗浄などの事業用水および消防防火用水等を考慮すると、1年のうち一番必要とする日の量(最大配水量)は、50,500m³/日になります。

全体を単純に一人当たりに換算すると、一日最大配水量は、56ℓ/日になります。

第5次計画区域等の新たな整備は、水源不足により拡張できないのが現状です。

このような現状を解決していくには、将来どうしたらいいと思いますか？

今まで述べてきたものを整理してみると、地下水だけに頼る水源には、限りがあるのは確かです。

さらに、地下水汚染などの環境面も頭におかなくてはなりません。地下水の保全や、安全で安定したこれからの水道事業を考えると、水源は地下水一辺倒でなく、表流水による水源の確保も必要です。

地下水と表流水の2系統の水源による、安全で安定した上水道の整備が市民生活にとっても経済の発展においても、必要不可欠な施策であると考えています。

問い合わせ先

* 市民水フォーラムについては

企画部企画課
☎(63)2146

* 市の水事情については

水道部水道課
☎(66)3142